

第2回 国際ボランティア・ワークキャンプ in ASO

報告書

2007.11.23(金)~24(土)



館内閲覧専用



目的・概要

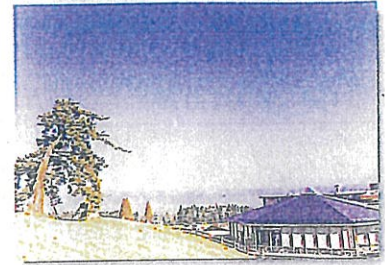
目的：

「若い人材」の「生きる力」を育む — 21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、地球市民としての資質を磨き、豊かな社会を築くための「生きる力」を高校生、大学生が自ら考え、話し合い、将来の実践に結びつける機会とする。また、社会貢献活動に取り組んでいる様々な団体、個人と出会い、話し合える場とする。

概要：

- ・実施年月日 2007年11月23日(金・祝日)～24日(土)
- ・実施会場 国立阿蘇青少年交流の家
(〒869-2692 熊本県阿蘇市一の宮町宮地6029-1)
- ・参加者 146名 内訳 高校生80名、大学生23名(留学生11名を含む)、
団体関係者43名)
- ・主催 国際ボランティアワークキャンプinASO実行委員会
(構成メンバーは、最終ページに記載しています。)
- 共催 日本ボランティア学習協会、熊本県国際協会
- 後援 熊本県教育委員会、熊本日日新聞社、(社)日本ユネスコ協会連盟
九州地区高等学校国際教育研究協議会、
宮崎県高等学校国際教育研究協議会

- ・ワークショップ協力団体等：
国際協力機構(JICA)九州国際センター、(財)熊本YMCA、宮崎県高等学校文化連盟国際・ボランティア専門部会、宮崎県高等学校国際教育研究協議会、山口県バングラデシュとの交流、九州環境パートナーシップオフィス(EPO)、フェアトレード くまもと、フリーザチルドレンくまもと、ブラジル移民100周年記念事業、ワールドキャンパスインターナショナルくまもと、熊本ユネスコ協会、日本語ボランティア活動(財)熊本市国際交流振興事業団)、共に歩み青春を語る会、立命館アジア太平洋大学PRENGO、近代経営研究所・NPOヒューマン・ライフ・スクール、国際理解教育情報センター、熊本県立大学国際倶楽部
(順不同)



スケジュール

1日目 11月23日(金・祝)

	◇ 活動内容 ◇
11:20	・国立阿蘇青少年交流の家集合 ※熊本市国際交流会館発の専用貸切バスで移動
12:50	・入所オリエンテーション ・昼食
13:00	・開会のメッセージ 興沼 寛(日本ボランティア学習協会) ・宮崎県の高校生の発表 ・アイスブレイキング
14:20	(多目的研修室)
14:30	・分科会 ～高校生が主体になって考える! (1) 多文化共生(多目的研修室) (2) 国際環境(第5研修室) (3) 国際協力(第7研修室) (4) 国際平和(第3研修室) (5) 国際福祉(第8研修室)
16:50	
17:00	・夕べの集い(つどいの広場)
18:50	・夕食/入浴
19:00	・ワークショップ
20:30	(多目的研修室)
20:45	・全体交流会
21:30	(体育館)
23:00	・就寝

アイスブレイキングでは、実行委員が一人ひとりフェアトレードの洋服を着て、紹介とファッションショーを行いました。



高校生が自由に団体ブースに立ち寄り、色々な話を聞くことができました。

2日目 11月24日(土)

	◇ 活動内容 ◇
7:00	・起床
7:30	・朝の集い(つどいの広場)
8:50	・朝食 ・退室チェック
9:00	・分科会
10:50	(前日の続き～各分科会に分かれて)
11:00	・全体報告会 (多目的研修室)
	・昼食 ・解散
13:30	※熊本市国際交流会館着の専用貸切バスで移動

1. 多文化共生 参加者 29 名

報告者：李 婧怡（熊本県立熊本高等学校）

多文化共生分科会は、異なる文化的背景を持つ人々の共生を国際規模で考えるためのものであり、非常に幅広く、国際理解を考えるための基礎となるものでした。

今回は、最初にノンバーバル・バースデイ・ラインやバーンガなど、ゲーム感覚で他者とのコミュニケーションの大切さを理解し、そして言葉が通じないときの大変さを体験しました。



その後、実際に在住外国人の方々の話を聞き、文化の違いによって生まれる誤解やそれが原因のいじめについて話し合いました。

今回の分科会で学習したことは大きく二つあります。一つ目は「自分の価値観を絶対的なものだと考えない」ことです。私達は自分が生活している地域や社会におけるルールを当然のこと、唯一無二のものだと思いがちです。しかし、世界の中ではそれと真逆なルールが

存在することもあるのです。それに出会った時、それをおかしなものだと考えるのではなく、こんな価値観もあるのかと謙虚な姿勢で受け入れるべきだと思います。そしてそのような包容力を身につけてこそ、国際理解が可能になります。



二つ目は一つ目と結び付きませんが、「相手を尊重し、興味をもつこと」です。非常に簡単で当然のことのように思われますが、実際はなかなかできないと思います。私達は知らない間に他人に自分の価値観を押し付けていることが多々ありますが、そうではなく、相手の価値観を知り、それを尊重したうえで自分の習慣などを教えてあげれば良いと思います。

今回はボランティアワークキャンプに携わることができ、非常に勉強になりました。この多文化共生分科会で国際理解のきっかけを作ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

2. 国際環境 参加者 20 名

報告者：石坂 沙織（熊本県立熊本高等学校）

国際環境の分科会では、まず「環境の」に取り組みました。「環境の木」とは、「環境問題について考えたことがある」、「フェアトレードを知っている」など環境についての意識や知識を問う 20 項目について（はい・まあまあ・いいえ）の 3 段階で評価し、その評価をもとにしてシートを緑色・黄色・茶色で塗り分けるもので、自分の取り組みを視覚的にとらえてもらうために行いました。意識や行動に関する項目では緑、「アグロフォレストリー」など知識に関する項目については黄色や茶色が目立ちました。



その後、コーヒーを例に「フェアトレード」と現在主流の「プランテーション」の説明をしました。そして 2 種類のコーヒー（フェアトレードとプランテーション栽培のもの）を試飲して、感想を発表し合いました。

その後どちらのコーヒーかを伝えましたが、おおむねフェアトレードは「コーヒーらしい味」「香り高い」「味が濃い」「苦い」、プランテーション栽培は「いつも飲んでいるコーヒーの味」「香りが弱い」「味が薄い」という感想が出ていました。フェアトレードは環境や生産者に優しいだけでなく、消費者にも優しいということをもっと知ってもらえたと思います。

そして最後にもう一度「環境の木」に取り組みました。その結果、1 回目よりも圧倒的に緑が目立つようになり、環境に関する理解が深められたことを実感しました。

たった 2 日間のワークキャンプでしたが、この分科会が環境についての理解や関心を深めるきっかけになったと思っています。



この分科会を行うにあたって協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

3. 国際協力

参加者 27 名

報告者：坂田 琴美（熊本市立必由館高等学校）

はじめに
私達は今回、『難民』に着目してみました。『難民』という存在を皆さんの中に改めて興味を持ってもらい、協力がいかに必要であるかを皆さんに認識してほしいからです。



しかし難しく捉えずゲーム感覚で楽しくやりたいと考えました。

～当日の流れ～

1日目

- ①アイスブレーキング
- ②難民についての説明
- ③難民擬似体験ゲーム
- ④フェアトレードのお菓子の試食
- ⑤まとめ



2日目

- ①前日の振り返り
- ②報告会に向けて
 - ・グループごとにまとめる

〇学んだこと・反省

当日大きなトラブルもなく、順調に進み、参加者も実行委員も満足の結果に終わりました。参加者の皆さんからは「楽しかった」「考えさせられた」と言われ、達成感を味わいました。



これほど成功したのも周りの皆さんのお陰だと思っています。

私達実行委員も、参加出来てよかったと思います。

報告者：橋本 沙也加（熊本県立熊本高等学校）

4. 国際平和

参加者 15 名

様々な場所で平和が叫ばれている現代ですが、「平和」それ自体のイメージは、意外にも掴みにくいものです。

私たちはまず、五感で感じる直感的な「平和」を、ポーポキという本（主人公の猫が平和とは何かを考える話）を使って考えました。イメージする平和の音、感触、



においなどと、それをイメージした理由を聞くと、一人ひとり違いました。けれどどれも、それぞれの「安心できること」や「好きなもの」

に基づいた意見でした。次に、様々な状況に置かれた世界各国の子供達が考える平和を、これも本を使って見ていきました。“たくさんの人を殺して戦争に勝つことが平和”という悲しいものや、“食べるものがみんなの分あったから今日は平和”“学校で勉強することが平和の原点”というような、私たちが日ごろ忘れていている大切なことを思い出させてくれるものがありました。

なる環境下におけるそれぞれの平和と、それらの違いに対して、感想や思いを出し合い、「平和」の捉え方を共有しました。それは、“現実の平和は国家から個人への矢印で表され、いわば押し付けになっているが、本来は個人の心の平安の集まりが、国家や、それを越えた世界の平和でなくてはならない”というものです。そして最終的に、そのような「本当に平和な世界」にするために必要なことを一人ひとりが考え、活発に議論しました。“愛”“他国への理解を深める”“今あるものに感謝する”また、具体的に“自衛隊に入る”“大勢で影響力の大きい人に平和につながる要求をする手紙を送る”“国境をなくす”などが出ました。

今回は時間が限られており、話し合ったことを実行に移すまではいきませんでした。これらを模造紙にまとめて他の参加者に対して発表し、輪を広げることが出来ました。それぞれが平和は築くものであることを心におき、

これからの平和な世界づくりに役立てられたらと思います。



5. 国際福祉

参加者 12名

報告者：中村 直優美（熊本県立熊本高等学校）

私たちは世界の福祉について、輪になってディスカッションを進めました。

まず、アイスブレーキングとして〔他者紹介〕をし、参加者はあだ名を書いた名札をつけ、あだ名で呼び合うことをルールとしました。

議題に入り、まずは“このとりのゆりかご”について話し合い、次に参加者に話し合いたいテーマを挙げてもらい、中絶問題、エイズ問題などを小グループに分かれ、グループごとに意見を出し合うという形で進めていきました。



この分科会で学んだことは、捨て子や中絶問題が起こってしまうのは、核家族化によるコミュニケーション不足により、親から正しい知

識を得ることができず、学校でも性教育が少なく曖昧な知識しか学んでいない若者が増えているから、また、安心して子供が産めるような社会保障が整っていないからということです。要するに、若者だけの問題ではなく、社会全体の問題なのです。



だから、何事にも興味・関心を持ち、考えを家族や周りの人と話し合い、正しい知識を共有するために伝えていこう、これから大人になっていく私たち高校生が子供たちにきちんとした教育をしよう、子供は社会の子という考えを持ってもらおう、という結論に至りました。そして、まずはこの分科会に参加した私たちから、少しでも多くの人々に今回のことを伝えることにして国際福祉の分科会を終わりました。

アンケート

1. 一番印象に残っている活動は何ですか。

分科会の活動	75%	ワークショップ	10%
全て	5%	全体交流会	5%
全体報告会	5%		

以下、紙面の関係ですべての回答を記載することが出来ませんので、同じ内容の回答は1つにまとめてあります。

2. 分科会に参加してどうでしたか。(感想)

- * 楽しかった、参加して良かった、色々な学校の人たち、外国の人たちとふれあい、勉強になったという回答が多くありました。
- 参加して良かったです。
- 楽しく学べたけれど、実際の問題は深刻だと思った。国際問題を深く考えられた。
- * 日本は難民の受け入れをほとんどしていないと聞いたけれど、本当におかしいと思った。
- * 自分を難民の立場に置き換えて考えた。
- ほとんどの人とコミュニケーションがとれた。
- 皆、いろんな考えをしっかりと持っていて、「すごいなあ」と思った。
- みんなと仲良くなれたし、いろんなことや自分と違った意見を、たくさん聞くこと、そして考えることができた。自分の意見を改善することが出来た。
- ほかの国の人や、ほかの高校生の話が聞けてよかった。
- ゲームを通して考えたのでわかりやすく、難民の本当の現状や外国人の気持ちを知ることができ、自分たちのすべきことをきちんと考えることができた。
- 自分が知識をあまり持っていなかったので情けなく思った。
- 自分の意見がでて良い体験でした。
- たくさん国の人たち、学校の人たちと接することができてよかった。
- 他の文化にも触れられてうれしかった。“多文化共生”の意味を深く考えさせられた。
- 言葉以外にもジェスチャーとか大事だと思った。
- 平和について一度も考えたことがなかった..いい勉強、そして思い出になった。
- ふだんはできないような深い話のできたので良かったです。
- 国際ワークキャンプと聞いて難しそうだから...と考えていまし

- たが、参加して学んでみるとひとりひとりの小さな行動だけで世界中のみんなが幸せになれることがわかりました。
- Q3. ワークキャンプに参加をしてこれから活かしていきたいこと。
- * 学んだことを実践したい、ボランティアにもっと参加したい、という回答が多くありました。
- 自分の知っていることを、どんどん自分から発信していきたいです。いろんな人のいろんな考えを知ることができたので、持ち帰って、よく考えてみたい。
- ボランティアなどにもっと参加したくなった。広がった視野をうまく活かしていきたい。
- これから具体的な行動にうつしたい。
- まずは学校の人たちに伝えなければならぬと思いました。世界を考えられる人になりたいです。
- 熊本ではフェアトレードを広める活動がとても盛んですばらしい！宮崎でも広めていくといいと思う。
- 何も知らずにいいことをしようとするのは、いいけど、そこにはデメリットがあると思います、そのためにはお互いに協力し、それぞれの意見をまとめ、結果をだすべきだと感じました。
- 募金について考え直したいー発展途上国の人のニーズを取り入れるべきだと思う。
- 自分の国の文化をもっと知って、外国人、全世界の人と相互理解の元に生きていく。
- 今回のワークキャンプで知ったことを生徒会でも行ってみたいです。

Q4. 次回参加するとして、入れてみたい活動はありますか。

- * もっとお互いに話す時間を持ちたい、色々な分科会に参加したいと希望が多くありました。
- 夜にあったワークショップは、自分の将来に役立ちそうだと思う。部屋が狭いので、人数配置を考えてほしい。
- ワークショップをもっとふやす。
- 分科会に1つだけでなく、いろいろ参加したかったです。
- みんなでディベートをする。
- テロ・紛争の実態を考える分科会

Q5. 実行委員をしてみたいと思いますか。

はい 53%
いいえ 47%

全体報告会



司会を務めさせていただきましたが、当初抱えていた『意見が出ない』という不安とは裏腹に、終始活かつ和やかに進行

して行きました。

まず、各分科会の発表があり、それぞれ中心となる人がしっかりと主張をまとめることができていたと思います。聞き手の様子も、高校生とは思えないほど落ち着いていて、熱心に聞き入ってくれていて大変嬉しく感じました。

その後、各分科会に対する発表についての意見交換がありましたが、突込んだ質問や賛同の声が飛び交い、予想していたよりもはるかに良いムードが進められていました。笑いあり、涙ありの場面もあり、私自身楽しく会を進行させることに重点を置いていたので、ひとまず成功したと言って良いでしょう。

後に大学生や先生方からも多くのお褒めの言葉をいただき、最後に参加された皆さんの中に、ひとつ考えるものを残せた報告会だったのでは、と思います。



国際環境

- * 環境のことを考えて買い物してみる (例えば…)
- ・公共交通機関を使う
- ・どこから来た商品か調べて買う
- ・フェアトレードの商品を買う

多文化共生

- * 固定観念にとらわれず、相手のことをわかって、相手に伝えようとする 気持ちをもつ

- * 積極的に色々な学習の機会に参加し、またそれを周りの人に広める

国際福祉

- * 何事にも興味・関心を持ち、(家族・社会・性教育・病気など)について考えて周りの人と話す

<知る> → <知識の共有>
→ <発信> 連鎖!

国際協力

- * 世界の現状、自分のことを知る ⇒ それを伝える
- ↓
- * もし自分が(難民や発展途上国の人々)の立場だったら、「何がほしいか、何が必要か」ということを考えてみる

みんなでやろう!
今日からやろう!
~5つの分科会からの提案~

国際平和

- * ~平和は築くもの~
心で思うだけでなく、行動に移す!
- (例えば…)
- ・偉い人(国家など)に平和を訴える手紙を送る

参加者からのメッセージ

国際・ボランティアワークキャンプに参加して

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 2年 平山 さゆり

今回、たくさんのことを学びました。まず、興梠 寛先生の「地球人になろう!」という言葉と資料から改めてボランティアについて考えさせられました。「国際環境」の分科会では、環境を身近に感じ、消費者として正しい情報を持つことを学びました。夜のワークショップの、多くの人との出会いを今後も生かしたいと思っています。二日目の報告会では各分科会とも分かりやすく堂々と発表して同じ高校生とは思えないほどでした。また、「宮崎から来たんですか?」とたくさんの人に声をかけていただいて大変嬉しかったです。熊本・宮崎の高校生同士が協力して学び、交流することができてとても良い経験でした。(感想文を抜粋)

熊本県立鹿本高等学校 小島 譲

私が、「国際ボランティアワークキャンプ in ASO」に参加して最も良かった点は、多くの人と出会い、視野が広がったことです。他の高校の人や大学生、留学生の方等様々な人が集まり、交流していく中で留学生の方と文化の違い等で苦労しながらも伝え合い共感できる喜びを身をもって感じたり、他校の人達がどのような活動をしているのかわかることができました。また、運営は全て高校生の実行委員の方が担当していて、同じ高校生とは思えないほどしっかりしていたのでとても刺激を受けました。他にも、世界のことについても知る機会を得て、他国についての新聞記事やニュース等にもさっと興味を持つようになりました。自分のことだけでなく、周りのことや世界のことにも目を向ける大切さを学ぶことができました。あっという間の1泊2日でしたが、自分が大きく変わった2日間でした。ぜひ、1人でも多くの人に、ワークキャンプに参加して、世界について少しでも知ってほしいと思います。

高校生実行委員より

高校生実行委員長 熊本県立熊本高等学校 日尾野 愛
 高校生実行副委員長 熊本県立熊本高等学校 井手口 香 純
 高校生実行副委員長 熊本県立熊本高等学校 橋 本 沙也加

このワークキャンプを通して、ボランティアについてもっと感心を持ってもらいたいと思い活動してきました。一昨年に行われた第1回のボランティアセミナーでは参加者同士の意見交換の時間が持てなかった、と言う反省を活かし、今回初めて分科会を設けましたが、この時間をとったことで、参加者との交流をはかることができ、分科会ごとに団結力も強まったように思いました。まだまだ改善点は多々ありますが、一昨年に比べ充実した一泊二日になったのではと思います。

この企画当初は、高校も学年も違い戸惑っていた実行委員でしたが、共通の目的に向かい話し合いを重ねるうちに自然とうちとけていき、今では一つの企画を共に成し得た仲間として強い絆が生まれました。

参加者、実行委員、お世話になった企業・団体の方々、皆様のご協力があって、この企画を成功させることが出来ました。心より感謝致します。ありがとうございました。これからも、このワークキャンプでの繋がりを大切にしていきたいと思ひます。

実行委員会構成団体（応援団）より

日本ボランティア学習協会代表理事 興 招 寛

高校生たちが創り集う『国際ボランティアキャンプ』は、成功裡に終了したと思ひます。企画運営を担った高校生諸君はもとより、その志しに共感し参加した若者たちに、心から敬意を表します。また、快く集いのチャンスを支えてくださった有志者・NGO・関係機関の皆様にも、深く感謝を申し上げます。

この計画は、その集会名のとおり「国際」「ボランティア」「キャンプ」をコンセプトとしています。私は、その3つのキーワードの表現を変えれば、“グローバルな視野”から思考し討論しあい、知識を深めることにとどまらず“行動する”ことをめざし、“ともに生きる”ためのコミュニケーションスキルを探究する計画であると理解しています。

なかでも、最も重要なキーワードである「ボランティア」(Volunteer)とは、主体的に自らの人生を切りひらき、社会を開拓・創造する人を表す言葉です。また、ひとり一人の主体的意志を尊重し、表現しあい、ともに想いを共有することをとおして、よりよい社会を創造することを願ひとしています。

その意味から、今回の計画をさらに進化させるために、「GPIP」(計画の掌握)という、4つの視点から検証することが大切ではないかと考えます。その視点とは、①「目的や目指す願ひ」(Goal)、②「参加者の役割」(Role)、③「企画の背景や意義」(Impact)、④「運営のすすめ方」(Process)などです。

開催日程への提案もしたいと思ひます。この出会いのチャンスをより深い心の絆を結ぶひとときにするために、可能であれば2泊3日にできたなら、さらに企画内容の充実をはかることができるでしょう。

最後に、この企画の礎となつていただき、天国から高校生たちを見つめつづけている榊定信先生に、すばらしい高校生たちの志しをご報告したいと思ひます。

国際理解教育情報センター 教育プロデューサー 藤井 誠

実行委員会の皆さん、ご指導、ご支援をいただきました関係者の方々に、お礼を申し上げたいと思ひます。ありがとうございました。

さて、自ら参加、行動することで、多くの気づきや発見があります。この気づきや発見は、自身の宝物であり、とても貴重なことです。しかし、その気づきや発見は、さらに生かされることで輝きを放ちます。

ワークキャンプから3ヶ月、何か変化がありますか？このワークキャンプは、終わってからまた新しい歩みが生み出される機会にもなつていたことを憶ひ出して欲しいと思ひます。

ところで、私はキング牧師の「I have a dream」が大好きです。あの声と群衆の前での姿に奮い立たされる何かを感じます。思ひや願ひがあれば、夢に近づくことができます。

このワークキャンプで感じ取つたことを、夢の実現に生かしてくれたら最高ですね。

(財)熊本市国際交流振興事業団 総務課 八木 浩光

平成19年4月興招寛先生からのお電話、そこから私の「第2回国際ボランティアワークキャンプ」が始まった。その前月ご逝去された故榊定信先生のご意志～21世紀、豊かな未来を育むためのキーワード「国際」「ボランティア」を高校生が自ら「学び」「考え」「実践」する場の創造～を継続させ、発展させていこう、という内容だった。高校生への参加呼びかけ、そのための高校の協力、経費捻出等、多くの苦難にも遭遇したが、親身なご支援いただいた関係機関、意欲的に取り組んでくれた高校生・大学生実行委員の皆さん、参加してくれた高校生諸君、そして、故榊定信先生の想ひによって、成功裡に実施することが出来た…本当に、皆さん、ありがとう！

ワークキャンプ2日間で、色々な出会いがあり、意見をぶつけ合い、また自分の中に吸収しながら将来への「希望の力」、「生きる力」を学んだ。

今後は、この「学び」を、普段の生活で「実践」、そして、家庭や学校で経験したことを広く伝えてもらいたい。そのため、経験者としての高校2、3年生がワークキャンプの内容を企画・準備・実施し、1年生が参加する、というサイクルを構築したい。九州各県の高校生が集う場へも発展させたい。さらに、「国際」、「ボランティア」分野における日頃からの高校間の連携、本ワークキャンプ継続への高校の協力体制が確立できれば心強い！



国際ボランティアワークキャンプ in ASO 実行委員会

主催構成団体

- ・ 国立阿蘇青少年交流の家 ・ 国際協力機構(JICA)九州国際センター ・ (財)熊本YMCA ・ 近代経営研究所
- ・ NPOヒューマン・ライフ・スクール ・ 国際理解教育情報センター ・ (財)熊本市国際交流振興事業団
- ・ 熊本ユネスコ協会 ・ フェアトレード・くまもと (順不同)

事務局：(財)熊本市国際交流振興事業団

高校生・大学生実行委員メンバー

日尾野 愛	熊本高校(実行委員長)	右田 壮平	熊本高校	池田 鈴香	必由館高校
井手口香純	熊本高校(実行副委員長)	後藤佑太朗	熊本高校	坂本 和菜	必由館高校
橋本沙也加	熊本高校(実行副委員長)	戸野本昌平	熊本高校	野辺 知子	必由館高校
石坂 沙織	熊本高校	中村直優美	熊本高校	壁村 岬	必由館高校
伊佐坂成功	熊本高校	高向さゆり	専修大学玉名高校	宿里 京子	熊本県立大学
李 婧怡	熊本高校	松村 ゆい	専修大学玉名高校	伊藤 英子	熊本県立大学
小原 正嵩	熊本高校	孫 浩岩	大津高校	阪本 里奈	熊本県立大学
大和 諒平	熊本高校	齊 昕	大津高校	津田 美矩	東京未来大学
渡辺 裕太	熊本高校	坂田 琴美	必由館高校	井上 佳奈	熊本学園大学